

勝てるチームへ 明るさで変革

女子バスケットボールのWリーグで戦う山梨クイーンビーズ(QB)のアシスタントコーチを今季から務める。日大明誠高、国際武道大でプレーし、現在は日本航空学園職員。男女の高校バスケット部などを18年間指導した経験がある。

2012〜13年シーズンは山梨QBのヘッドコーチをしていた。6シーズンぶりのチーム復帰だ。山梨QBは昨季、接戦で勝ちきれず、3勝30敗で12チーム中11位と低迷した。主力選手が移籍する一方、大卒新人が加わったチームに「持ち前の明るさで盛り上げ、勝てるチームをつくってくれ」と招かれた。

山梨QBアシスタントコーチ

しまのうち
嶋内誠さん (46)

「納得の指導を」

週4日、練習で指導にあたる。選手13人と同じ年頃の女性栄養士、トレーナーを指導スタッフに加え、春からは試

合終盤でも走り負けない基礎体力づくりと、故障しないよう体幹など筋力トレーニングの強化に努めてきた。今季のリーグ戦には故障者なしで臨むことができ、成果を上げて



ベンチで選手を励ます山梨QBの嶋内誠アシスタントコーチ。10月27日、北杜市高根体育館

いる。

練習で新たに取り組むのが「確認作業」だ。すべてトレーナーにビデオで撮影してもらおう。技術や課題の向上をめざす選手と、練習の途中でプレーをそのつど見ながら話し合う。「お互いに納得できる指導が大事」と考えるからだ。

選手の大半は20代前半。接し方で心がけることは「気取らず、高ぶらず、自然体」だ。「娘に接するのと同じようなもの」と話す。細かい配慮は欠かせない。フリースローの練習をする選手の球出しを積極的に手伝い、練習は最後まで残る。「おやつタイム」の輪にも飛び込み、コミニケーションを図ろうとあの手この手を使う。

選手の声生かす

そんな工夫を凝らすコーチを、主将の岡萌乃選手(25)は親しみをこめて「おっさん」と呼ぶ。「だって真面目に練習しているのに、ボールを奪ってヘディングで返したりするんですよ」。同時に「不満や困ったこと、すべて相談できる。必ず聞き入れ、改善し

てくれるのはうれしい」と信頼を置く。

選手との意思疎通で役立つのが、日本航空高校石川(石川県)の体育授業の経験だ。

関西出身の女子生徒が多く、授業の冒頭、いきなり「先生、髪切ったん？」「服かっこいいやん」と声をかけられる。すぐに返答できず、「笑い」がとれないと「んや、この先生あかんわ」という反応をひしひしと感じた。うまく「返し」ができると、「そりゃもう、その後の授業はグイグイ進みました」。

4日、山梨QBは南アルプス市の楡形総合体育館であった東京羽田ヴィッキーズ戦に99-107で敗れ、開幕6連敗を喫した。前半からリードし試合を優位に進めたが、延長にまでもつれ込む激戦の末に力尽きた。ただ、今季は10点差以内のゲームが多く、多彩な攻撃が機能するなど手応えを感じ始めている。

どうしたら勝てるのか。「勝ちたい気持ちや執念がまだ足りない。もっとプレーで表現しよう」と選手たちに求め続けている。(河合博司)

